

1336

軍極秘

海軍功績調査部長殿
阿武隈機密特第一号
昭和十九年十一月一日

見
軍艦阿武隈戦鬪詳報

自昭和十九年十月四日
至昭和十九年十月二十六日
フィリピン沖海戦

軍艦阿武隈

秋

阿武隈

十月三日送付

19.12.4
秋

阿武隈

目次

- 一、形勢
- 二、計畫
- 三、經過
- 四、令達報告等
- 五、戰果及被害
- 六、我が兵力ノ現状
- 七、功績
- 八、參考

一、形勢
二、計畫
第一水雷戰隊戰績詳報ニ同シ

(目次終)

月日時刻 天候	自艦ノ戦術經過	友軍經過
西日平時	コロン出撃第一警戒航行序列	
〇二〇〇	敵編隊ヲ探知總員配置ニ就ク	
〇九三〇	飛行機ヲ認メス編隊遠方ニ探知	
〇九四〇	針路ハ〇度ニシテ海ニ入ル	
一九二五	針路ハ〇度ニ変針	
二二二〇	五〇度方向ニ照明彈及機銃曳光彈ヲシキモノヲ認ム	
二五日(曇)	第四機敵序列ニ占位	
〇二〇〇	二六節ニ増速	
〇二三五		

〇三二一

猛烈ナルヨリ未襲視界極小不良
針路ニ度ニ変針（リカガ海峽到達）

二節ニ減速

〇三二〇

リカガ通過視界石料船七料ハオレ島ヲ
認め

緊急右九〇度一齊回頭

〇三二四

左一三〇度五〇米ニ雷跡発見

〇三二五

魚雷第七兵員室直下ニ命中（被害別
紙）直ニ防水被害極限ニ努ム左一五〇度
三料ニ魚雷艇一隻発見機銃射撃
若干ノ命中彈ヲ與ヘタモ撃破シ得ズ
速力一節以下減速針路概ネ二〇度

駆逐隊ハ三戰隊
ニ続航アリカガ海
峽ニ突入ス
第三部隊交戦中
ランギ砲声多聞キ
時照明彈發射

四四五

第一次危急海水遮防補強終了

反転針路ニ度危急操舵ニ速力ニ節
リカオ海峡ニ突入

艦首ニ艦型不詳、火災中ヲ認ム

四五六

左六度ニ料ニ魚雷艇発見交戦撃退

四五七

二戦隊反駆逐隊ノ反転来ルヲ認ム

四五八

反転針路概不南速力ニ節

応急ヲ続行ス

四五九

霞横付ヲ換艦ヲ變更ス

五度方向ニシラミ戦斗機数機ヲ認ム

四六〇

潮護衛前カヤミニ向フ針路ニ三度

速力ニ節

四六一

シラミ三機ノ攻撃ヲ受ク戦果被害ナシ

駆逐隊一時後尾ニ
続航ス

最上黒煙ヲ出シ傾斜
低速ニテ戦場ヲ離

脱シ来ルヲ認ム
曙最大護衛ニ就ク

0九四〇	かがまに回航ヲ取止るにタシニ向フ	不知火霞ニ戦隊ヲ
一〇〇〇	針路三四五度ニ変針	護衛面航ス
二二三〇	如ク着 激放心急作業ヲナス	最上カミレノ攻撃ヲ
二六日早朝		受テ爆弾命中火災
〇六〇五	第二次應急（海水遮防補強排水重	機械停止ス
	量物燃料移動）終了「ロ」ニ向テダビタ	曙最上乗員ヲ救助
	シテ針路三三五度	シテト共「ロ」ニ向フ
〇六三〇	B24一機発見ス	潮出港護衛ニ就ク
〇六五三	B24一機ノ爆撃（爆弾二個）ヲ受ク戦果	六〇七朝出機ノ爆撃
	被害ナシ	ヲ受ク被害戦果ナシ
〇七一五	針路三七度（潮敵潜ヲ探知セリ以テ回避ス）	潮出威投射ヲ行フ
〇七四五	針路九〇度速力一〇節	
〇九〇〇	針路三三〇度	

〇九一八 B24 二。数機 B24 六機ヲモ。度方向ニテ新発見ス
 〇九一一 B24 六機ヲモ。新機度ニテ一周シ攻撃ス
 〇九四一 B24 六機ヲモ。新機度ニテ一周シ攻撃ス
 〇九五一 B24 三。数機ヲ襲ミ速カニ六節増速回避
 一〇〇六 第一次 B24 六機ノ攻撃ヲ受ク一機ヲモ。新機度
 二個乃至三個死投彈。高度三〇〇米以上
 一彈三兵員室ヲ命中。彈片ニ依リ前
 部電信室小火災
 一彈副長室(戦隊機関長室)ヲ命中。至近命中
 附近小破。其他至近彈
 高角砲及機銃ノ大部(約七割)ハ至近彈ヲリ依
 リ使用不能機銃員七割戦死(重傷)

発射管に危険ヲ認め魚雷投棄(八分)
次発魚雷(八分)ヲ装填ス

第貳回約三機ノ攻撃ヲ受テ第貳回同シ

高度ニ。米以上三彈ヲ番砲下水線附近ニ命中

彈片ニ番砲々則裝藥ニ引火電信室附近

中火災一彈カバル止左舷ヨリ消毒器室前

甲板ヲ貫キ後部機械室ニ炸裂蒸氣噴出

内ニ軸使用不能(後部機械室並正機室又

機関科要員庫ニ在リシ總員戰死ノ模様)

舵故障操舵不能其他至近彈彈片ニ依

リ機銃員殆ト全滅ス

後部彈火藥庫ニ注水後甲板爆雷投棄

ニ番砲管八次發裝填終リ將ニ旋回セントセシ

毛彈片ニ依リ旋回不能ニ四番管魚雷頭部ニ
引火小火炎現露ニ其ハ全カヲ擧ゲ極力消火
ニ努メタルニ其ハ(重傷)ニ依リ人員極メテ僅少
約五名ハ危急用水柱ニ消火要具ハ彈片ニ
依リ飛散且消防主管ヨリハ殆ド吐水セズ
漸次火勢ヲ抑大セシメ終ニニ番管魚雷
四本自爆ス(五三七)爲ニ前部機械室及四番室
破壊シ總員戰死ハ三前部用不能停止スル
纜テニ番管魚雷本(次飛散機終了放棄
セルニ本ノ後扉閉鎖セリ不能)自爆ス
電信室内火災ハ三番砲顛倒シ入口ヲ閉鎖セル
爲消防作業意ノ如クナラス終ニ艦橋下附近
大火災トナル

潮時約九時ノ致撃ヲ
受ケタル特ニ船体被
害ナシ

第三次B24三機、攻撃ヲ受クニ機六。能程度ヲニ
乃至三個投彈ニ高度ニ〇〇米以上全部至近彈

一〇四〇

B24ヲ撃退スニ機ニ艦橋附近ニ在リシ艦員ヲ以テ

一部前甲板ニテ曳航ノ用意ヲ行ヒソシニ艦橋

附近防火ニ従事ス

一〇五〇

B24ヲ撃退スニ機ニ照燈ヲ吐カシメタルモ撃墜スル

ニ至ラス

一一〇〇頃

水雷砲台ノ火炎ハ中部迄達シカニ引火シ火炎

大ヲ覆ヒ殆ド焼盡シ得ザル状況トナリ

艦員退去ノ用意ヲ令ス

爾後数火ニ直リ高角砲台附近及中部機銃

群附近ニ連続小爆発ヲ起シ船体左舷ニ傾斜

シ始ム

朝後近シカッタート知
シ人員救助ニ當ル

- (一) 作戰ニ影響セル事項
特ニナシ
- (二) 行動圖及合戦圖
別紙

一八
一ニ
一ニ
一四
五〇六

全員必死ノ努カモ空シク火災ハ船大船体ハ暫
時波下ニ終ニ如何トモナシ難ク總員退去ス
B24ハ機來襲セルモ攻撃セズ
阿武隈左舷後部ヨリ沈没ス
艦長以下准士官以上二六名下士官兵二五七名
溺ニ救助サル

司令達報告及通報

日時
元日
通報

司令達報告等

種別

八日
A
1500

0730セブ上迎敵戦機七西進

午旗

九日
P
500

艦隊

陸軍が砲撃を為せる地帯を通過し

南シブ南ウヤ中心に其の地より南に三新

タロバン南ウヤ五新沿岸地帯同市西方三新沿岸地帯発見

ト連ネル線以南敵諸地帯尚陸軍八右地帯内著名目

標二対シ成シ得バ爆撃ヲ実施爆煙ニ依リ午段ヲ辨スル

飛行機編隊ハ六度ニ九新迄近シヤ反戦北上遠サカレリ

八三三三度方向七四新

発見

九日
A
1500

艦隊

九五二四五機が北上シテ北西ニ飛行中ニシテ三〇頃空襲

大ニ三三〇以後対空方ニ敵意戒厳備兵節即時待機トナセ

発見

八日
P
500

艦隊

13472

艦隊

艦隊

惜余西學

一、シシタチオ西口第一地区に侵入し、第二地区に敵潜水艦潜伏、其の艦隊の第一地区に警戒航行序列、第二地区に第三接敵序列ヲ以テ駆逐艦二隻ヲ以テ警戒射撃ヲ実施シ、少くも突破ス
二、水戦司令官ハ右ニ應ズル射撃艦ノ配備及駆逐艦名具ノ
他ヲ定メ報告通報スベシ

光緒

2YB 億分第一號

艦隊ハ明日特令ナシシテ本カク行動明日ヨリ。

スリガオ海峽に突入ス

又時針路八度。時針路六度。三三六節曾迷。

王時二斷二增漢

XYE時ヲ失セ一五、二六五。二四五卜平定ス

六、二〇之字逆動之字圖將則變動係由散序列(第三種散序)變來

川
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

五方之軍用，乃名臣也。人皆謂以兵

卷之七

1349 ✓

阿武隈

三月 八日	八月 十五日	八月 十五日	
15.0 (艦隊)	15.0 (艦隊)	15.0 (艦隊)	
四、時及、時変針後五分ニシテ原之隊運動ヲ再興ス 五、三、以後三八節即時待機最大戦速ニ至テ待機。四、以後 最大戦速即時待機トナセ 水戦指令第三八号 待令ナケレバ明ニ五日。四。以後五スリ。但シ右以前水戦部手旗 隊會敵場合ハ令無クシテ右配備ニ従員スルモノス	今朝。六五。飛行偵察ニ依ルレーズ隊情左ノ通り ドラク東。五。オ。至。運。下。ハ。B。四。C。ニ。D。五。至。ハ パナイ。島。北。東。側。D。四。艇。母。一。飛行艇。若干。別。大。型。下。二。 アリ。ト。報。テ。島。北。西。側。小。艇。一。隻。雷。艇。算。大。一。隻。隻。 山城。觀。測。機。ハ。本。日。右。島。雷。艇。ヲ。薄。暮。攻。撃。ノ。予。定。 最。上。機。ハ。六。五。レーズ。偵。察。狀。況 一。ド。カ。一。六。度。一。五。度。B。四。C。ニ。D。ニ		

潮 ^{一〇五〇}	潮 ^{一〇五五}	潮 ^{一〇六〇}	阿武隈 ^{一〇六五}	阿武隈 ^{一〇七〇}
2YB NSB	2YB NSB	2YB	潮	潮
阿武隈火災爆発ス 我敵大型機三十機ノ爆撃ヲ受テ被害ナシ	被害不明 阿武隈B24三十数機ノ爆撃ヲ受テ至近彈多散 潮機密第 ^{三六〇〇} 番電	潮機密第 ^{三六〇〇} 番電 B24三十数機本艦上ニテ墜向テ地突グロソ 三三〇度ニ運	貴艦燃料補給ノ要ヲバ同時実施ス 本旦五〇〇頃ネグロス島ナブラ不湾ニ短時間寄航 危急作業ヲ行フ	発信ノ要アル場合ハ即知ラセラル
16	15		手旗	手旗

潮 六〇 八〇	潮 三〇 三〇	潮 三〇 五〇	阿武隈 二〇〇	阿武隈 一〇四五
A 15d 2YB NSB	2YB NSB	2YB NSB	潮	潮
潮機密第六三八〇番電 一五〇六阿武隈乗員（護士官以上艦長以下二六 下士官兵二五七重傷五二〇名）救助終了 カガヤン島南方ヲ經テコロニニ向フ ニ目ハ〇頃着キ予定、本艦損傷輕微ハ〇、 位置直九度九分北一三一度五四分東燃料残額二五	潮機密第六三三〇番電 一三五先、大型機南ヲ去ルハ一機、觸接中	潮機密第六三五五番電 一四〇三阿武隈沈没地是「カガヤン」ニ〇〇度三七理 我人員救助中、艦長救助ス、大型機上室ニアリ	左舷艦首ニ横付タリム	飛行機、危険ナキニ至ラバ横付タリム、以テ視タリム
/mm	/mm	/mm	手旗	手旗

阿武隈

潮	阿武隈	潮	阿武隈	潮	阿武隈	船隊	八音
阿武隈	潮	阿武隈	潮	阿武隈	船隊	船隊	八音
貴船より直接打電ナルヤ	カガヤンハ、錨地不良付カ、ロタン湾へ回航ス	先程ハ本艦吸水ホ、故障シ速力低下セル時ガ、マン ノ襲撃ヲ受テタリ、戦死ニ能体異状ナキ見込ミ、 市健斗ヲ折ル	出シ得ル速力ヲ節シ、小角度地行運動ヲナシツアリ 適宜ノ運動ニテ不領トス	異状ナキ、出シ得ル速力ヲナシツアリ	霞ハ阿武隈橋付ヲ連シ、旗艦変更シ、阿武隈ハ潮護衛シ カガヤンニ回航ス、急修理ヲ實施スヘシ	ニ同奥一丸ノ度ニ運「レ」ハ ニバオン島北東側「D」四、四側ノ舟艇一〇数隻 四ドラク南方四運「D」沿岸「D」四飛行艇若干	八音
手旗	手旗	手旗	手旗	手旗	手旗	手旗	手旗

14 15

阿武隈

三三〇 阿武隈	三三〇 阿武隈	一六〇 Asd	二六〇 阿武隈	二六〇 阿武隈	〇七五 潮	〇七五 潮	八五 潮
潮	潮	Asd	阿武隈	阿武隈	阿武隈	阿武隈	阿武隈
×××本艦、打電ス	本艦、鎢地（マタ）オボイト、三〇度三桁貴艦ハ 本艦、西北方一桁附近ニ鎢地ナレ度、湾内敷設線 右ナリ、二五度一八桁ヨリ一六度一桁 一阿武隈ハ今夜カクシニ做泊、必ズ修理ヲ行ハル後 ヨリ、同航セヨ、爾後、行動ハ追テ今ス 六潮阿武隈護衛任務ヲ同艦ヨリ同航時迄ニ改ム 敵哨戒機一機、又、同航ナリ	本艦本日、日没後戦死者、水葬ヲ行フ	要方回遊ス異狀ナシ、出シ得ル速カニ節	弁電打タレシヤ	本艦、特別場合、外電波ヲ出サザルニ付、貴艦ヨリ		
手旗	手旗	手旗	手旗	手旗	手旗	手旗	手旗

潮

P 13d P NSB	P 9P P 2YB
----------------------	---------------------

阿式隈戰斗概報

二六日〇六〇「コロリン」發(二五日「レイ」湾入口ニテ
被雷一)潮護衛下ニ「コロリン」二回航中(最大速
力十八節)「コロリン」西方海面ニ於テ第一次〇六四七
B 24一機來襲 被爆戰果被害ナレ 第二次
一〇〇六「コロリン」西四ニ至ル間B 24二機(内潮九機)
高度概ネ二〇〇〇米以上ニテ來襲セト交戰數手
破一機(確實)及被彈機數機ヲ認メタルモ
數手隊スルニ至ラズ 我五番砲左舷及三番砲附近
ニ直撃彈各ニ乃至 其他全周ニ至近彈多數
ヲ受テ砲銃ハ殆ド壊滅 後機破壊水雷砲台
火災ナリ 遂ニ〇三七水雷砲台大爆發(殘
存魚雷八本)之ヲ爲 中部大破壊機械停止

阿比陵

漸次浸水増大且重砂、爲大火火ヲ起シツ
左舷傾斜一三四三洲被シ
沈没位置及生存者ハ潮機密事ニ大ニ三ノ五
番電及同第ニ大ニ八〇番電ノ通

（終）

五戦果及被害

(一) 戦果

(イ) 二五早朝「スリガオ」海峡入口ニ於ケル対魚雷艇戦斗ニ於テ
機銃数弾一隻ニ命中セルモ沈没セシメ得ズ

(ロ) 二六日対空戦斗ニ於テ一機撃墜破(黒煙ヲ吐カシム)セルモ撃墜
墜スルニ至ラズ

(二) 被害

(イ) 「スリガオ」海峡入口ニ於ケル被雷被害

魚雷艇一隻一本衝撃寸前ニ至リ度ニテ水深下ニ米左四
五番ビームヨリ五番ビーム間ニ命中

一 船体

破孔ハ二辺約四米、正三角形ヲナス浸水量約十噸浸水箇所
左ノ通

(a) 浸(満)水セル個所

上部一、二、三、四番重油タンク 下部一、二番重油タンク

前部配電盤室

主砲發令所

電話交換室

転輪羅針儀室

測程儀室

第七兵員室

前部十四種彈火藥庫

前部米麥庫

(b) 約十分經過後迄ニ満水セル個所

第八兵員室 前部冷却機室

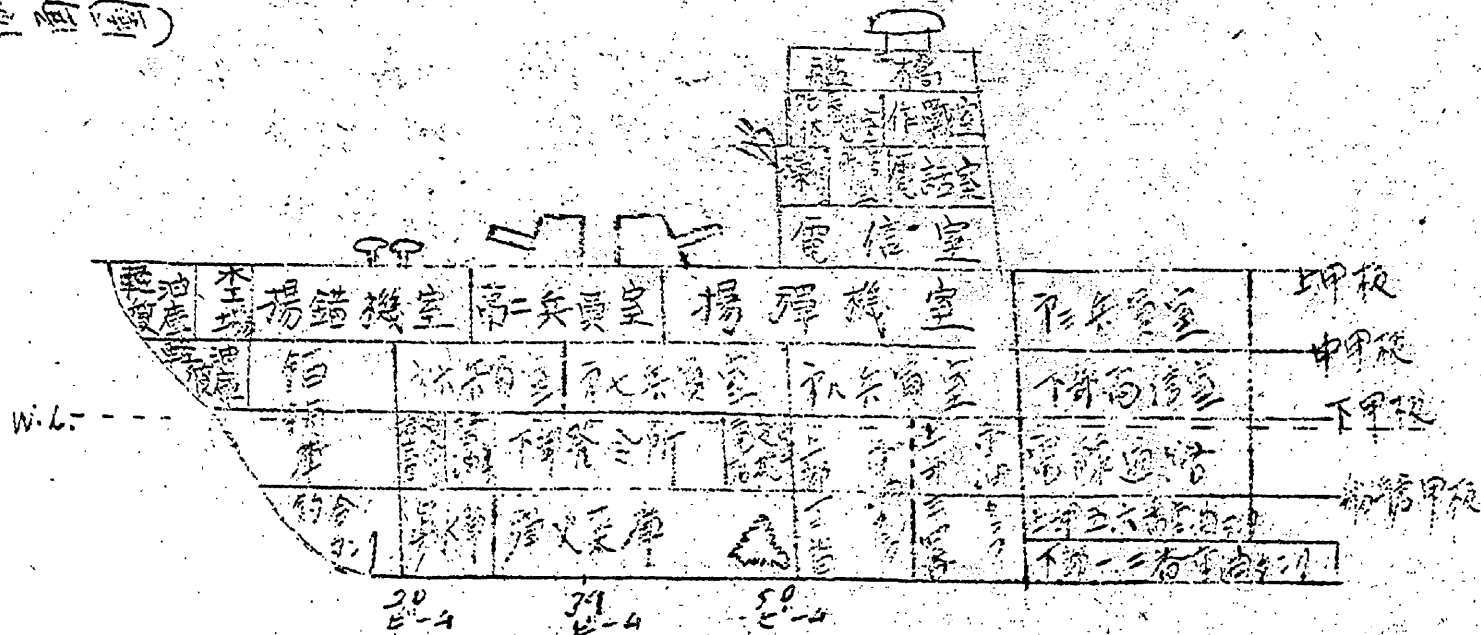
(c) 航海中 餘々ニ浸水前水トナリシ個所

水中聽音器室 准士官糧食庫 醬油庫

(d) 漏水セル個所

第六兵員室(一時同約ニ五噸程度) 前下部電信室

(圖例)



1358



阿比渡

兵器機關（主として浸水に依り使用不能トナル）

(a) 砲術科

(i) 偵射撃装置

(ii) 砲戰指揮通信装置全部

(iii) 探照灯用管制器全部

(iv) 前部十四糎揚彈藥機

(v) 二五糎彈藥庫、一糎火藥庫、前部水雷火藥庫内

高角砲機銃彈藥、三糎機銃彈藥庫、射出裝藥内

機銃彈藥、前部十四糎彈藥庫

(vi) 前部砲群旋回動力停止

(vii) 四五米測距儀仰角五度以上使用不能

(b) 水雷科

(i) 魚雷戰指揮通信装置全部

(iii) 遠尾裝置發射電線裝置全部

(c) 通信科

(i) 二號電探整流器破損使用不能

(ii) 其他受信機用電線管若干破損

(d) 航海科

(i) 前部制航裝置

(ii) 運力通信器回轉增減器舵角指示器

(iii) 輪軸羅針儀九式式測深儀式羅測程儀

安式航跡儀

(iv) 各種通信裝置全部

(v) 各種信號燈電燈停止

(e) 機械部

(i) 機械異常ナレ

④ 上部一三三四番、下部一二番 重油、重油、重油、海水、汽水、汽水

釀不能

⑤ 一缶室前部隔壁電線貫通部より少量、海水一缶室内に浸水あり

三、人員

(a) 戦死

主砲塔令所内海士官以上一名、下士官十名

前部電信室暗號室四(一酸化炭素中毒)海士官以上一名、下士官十名

転輸室内一名

弾火藥庫関係(一酸化炭素中毒令所)一名

配電盤室一名、冷却機室一名、電線交換室一名、病室(一酸化炭素中毒)一名

計、三十七名

戦傷

若干

(1) 二六日村空戦斗に於て被害

一北没(被害經過は前項ノ通)

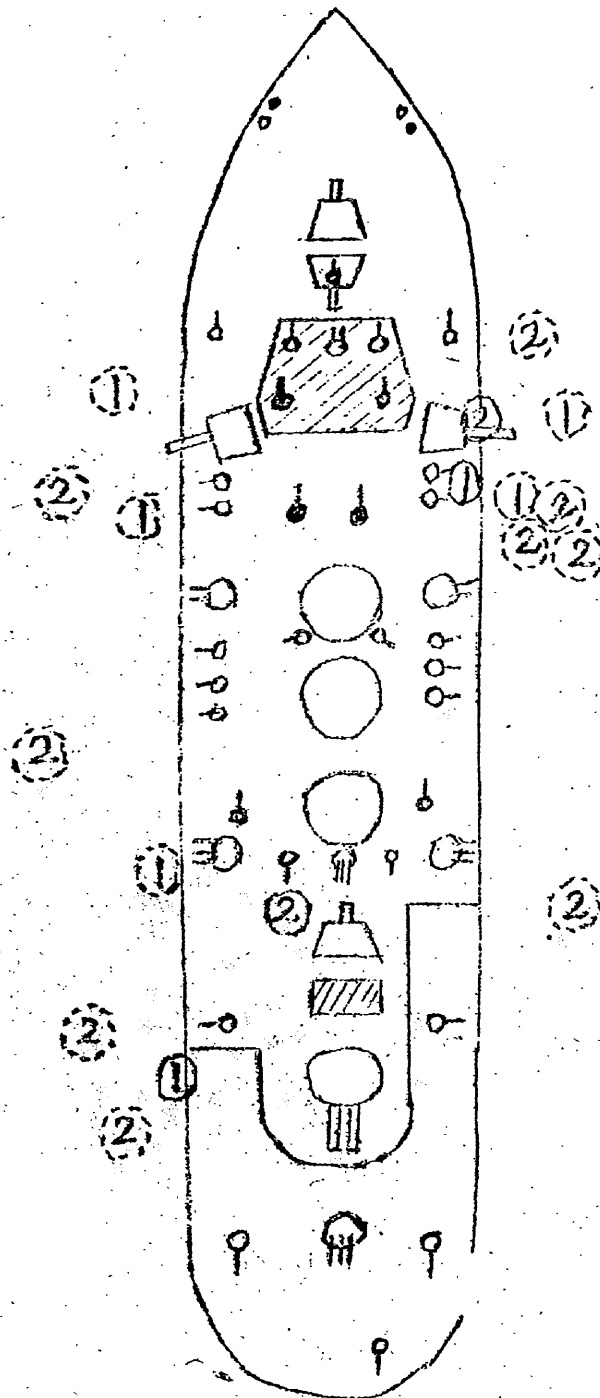
二戦死(被害以上一名 下士官兵二百七名)

戦傷(送院)被害以上七名 下士官兵一百四名

三被爆(直撃三至近弾多数)概畧圖 ①第一直撃

②第二直撃

③至近弾



26

阿比陵

六 我軍兵力、現狀

復没 特ニナシ

七 功績

大聖殿、言、機、中、吸、収、の、能、力、を、一、時、に、最、後、迄、進、斗、敵、を、
若、干、の、観、望、の、果、へ、ナリ

八 參考

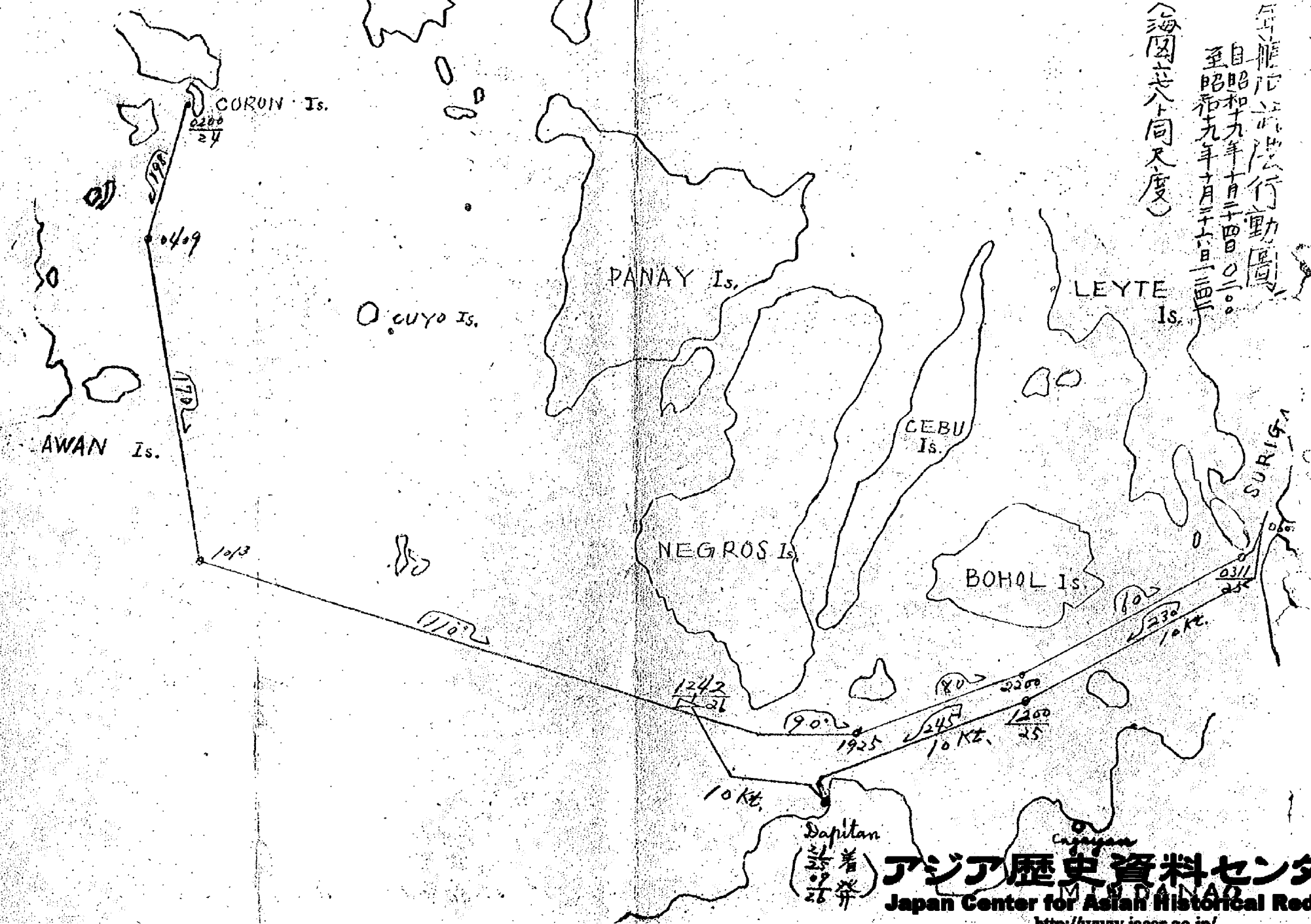
一 戦訓

別紙

二 寫眞、天氣圖

特ニナシ

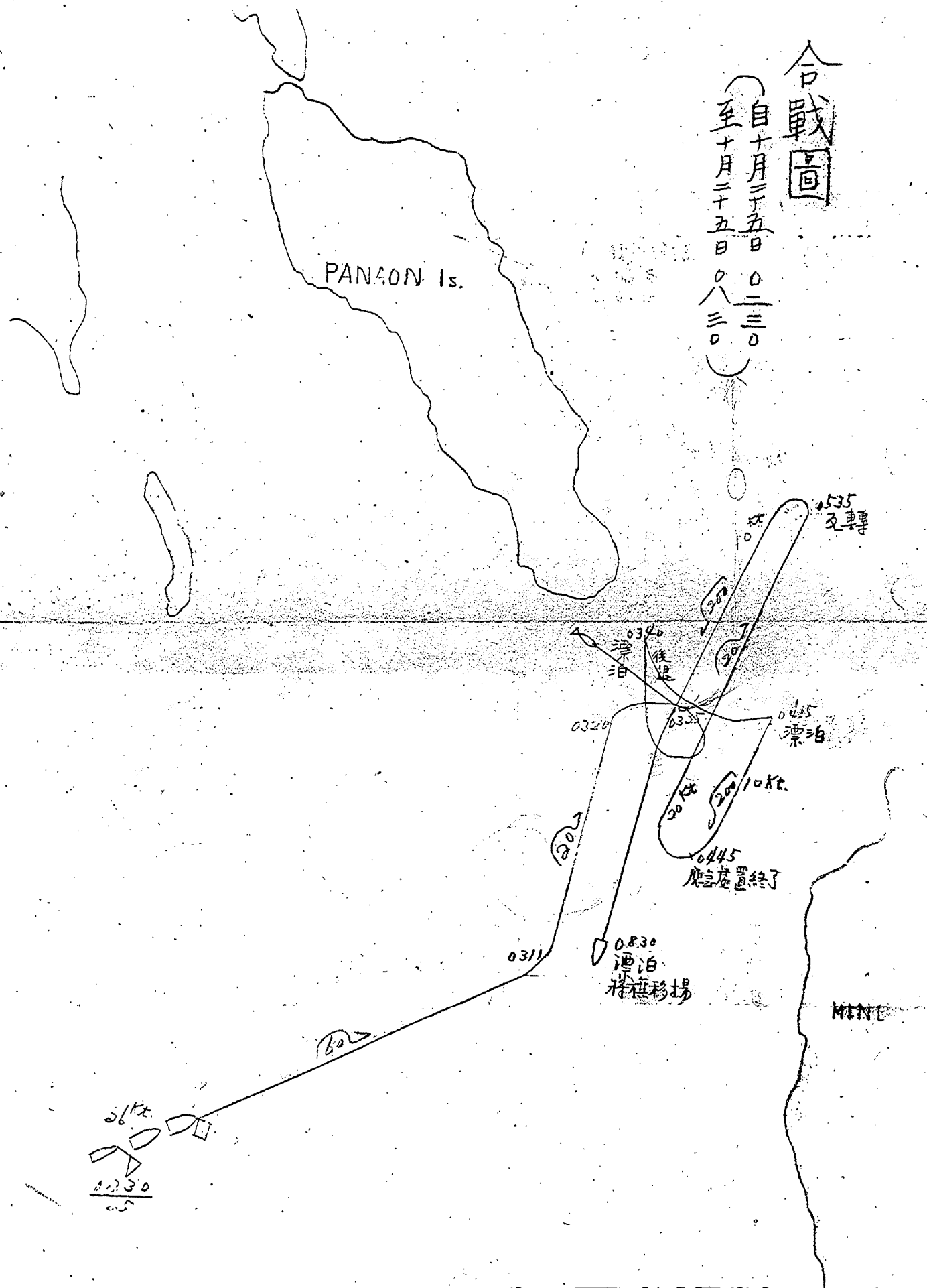
(終)



2

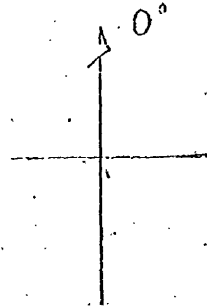
合戦圖

自十月二十五日 〇二
至十月二十五日 〇八
三〇



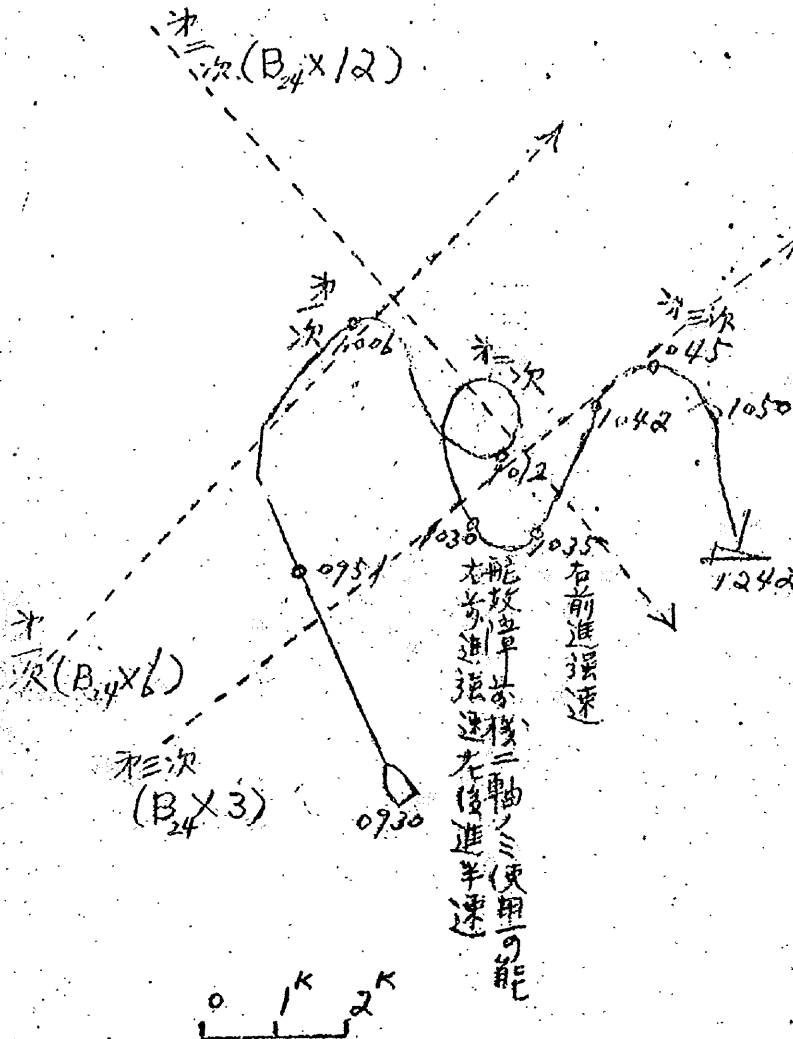
8981

五十鈴



合戦圖

白土三十三番九三〇
至岡口
一四二



別紙

捷一號作戰ニ於ケル戰訓所見

〔用兵一般之部〕

一戰艦ヲ局地夜戰ニ使用スルコトハ不可ナルコトハ既ニ「サボ」島
沖海戰ニ於テ經驗済ナルガ捷一號作戰ヲ於テ漫然此過誤
ヲ繰リ返セルハ誠ニ遺憾ナリ

〔註〕捷一號作戰ニ於ケル14Bノ第三部隊(Bx2Cx1dx4)ハ日出約三
周前「スリガオ」水道(幅十里)ヲ通峽セムトシBx1ハ魚
雷艇ノ襲攻ニアリ魚雷一本命中續イテ「レイ」艦内
ニ入ルヤ敵ノ展張セル煙幕ノ爲通視利カズ(局地ナル
電探モ能力發揮困難アリシモノト想像ス)何等爲ス所
ナクシテ敵ノ集中射撃ヲ蒙リdxヲ除キ他ハ全部壊滅セリ
ニ上級司令部ハ下級司令部ノ作戰計畫ヲ檢討シ不良ナル個所

ハ即時改メシムルヲ要ス

(註)

前記第三部隊ノ突入計画ノ如キハ誠ニ愚ノ冒頂トモ

云フナク如何ナル作戰目的ヲ抱キテ行動セルヤ爲人ノ等

シク疑問視スル所ナリ。若シ敵ノ有力部隊ヲフレイト

湾内ニ牽制セシメ第一第二部隊ノ戦鬪ヲ有利ニ導クカ

爲ナラバ第三部隊ハ湾内ニ夜間突入スル要ナク湾外

ヨリ反轉シテ可ナリ。

又敵ノ母艦部隊ヲ誘致シ其ノ艦上機ヲ吸收シテ味方

ノ航空作戰ヲ有利ニ導ク爲ナラバフレイト湾ニ突入ス

ルカ如キ擬勢ヲ示シ晝間討空砲火ニ依リ吸收セル

敵機ヲ撃墜スルヲ可トス何レモ有力ナル敵カ

準備萬端怠リナキ邀撃ヲ配備ニ就キアル中ニ漫然

突入シテ自滅スルハ無意義ナリ。

狹隘ナル湾内ニ入り来レル敵艦船ハ我が航空機ニトリ袋
ノ鼠ニ等シキモノナレバ第三部隊ヲ以テ追出ス必要ナレ
航空機ニ依ル晝夜間攻撃及小艦艇特種艦艇ニヨル
殴リ込等ニヨリ撃滅スレバ可ナリ

(第三部隊又主力ヲ湾内ニ突入セシムルコトナク、 $dx2$ 程度
ヲ好機湾内ニ突入セシムル如キ作戦ニ出デナバ若干
ノ成果ヲ擧ゲ得タルモノト思考ス)

〔應急之部〕

三老朽ナル輕巡モ防火防水對策ヲ充分ニ講ジ置カバ其ノ
防禦力ハ意外ニ大ナルモノナリ。依テ苟モ有利ト認ムル
諸對策ハ細大漏スコトナク實施スルヲ要ス

(註)阿武隈ニ於テ防火防水對策トシテ實施セル事項
(1) 防水對策

人訓令ニ依ル浮力増強對策（防水蓋ニ門ヲ掛ケル法）
 2. 下甲板後部諸室中主ナルモノハ防水區隔トシ入口ニ
 應急防水扉（木製ニシテ片面ニ薄鉄板ヲ張り門ニテ
 密閉ス）ヲ装着ス

3. 石油空缶ヲ密閉シ艦底ノ空所ニ入ル（水深十五米迄ハ
 缶ノ強度充分ナリ）

4. 隔壁ノ諸孔ヲ丁寧ニ調査密閉スルト共ニ給氣口排水
 口等ハ布片又ハ木栓ニテ密閉ス

（四）防火對策

1. 室内内張ノ剝脱（剝脱セザリレ部分ハ治療室、病室
 前部及後部電信室、電話室、電探室）
 2. 木具、徹底的除去

（註）第三兵員室副長室ハ直撃彈其、他各兵員室相當

至近彈片侵入セシモ火災ヲ生ゼズ電信室ノミ彈片依
リ内張「ソフアー」机等ヨリ火災ヲ生ゼリ

3. 艦内塗具、剝脱及防火塗料ノ塗布

々應急用水ノ準備ハケンバスオスタツポ浴槽等ノ外石油

缶缶ニ水ヲ入レ之ヲ密閉シ要所ニ配置セリ特永留砲

台座ニ彈火藥庫外ノ空所及今上部甲板ニ多量準備セリ

5. 最上甲板ヨリ艦橋甲板及艦橋ニ至ル消防管ヲ増設セリ

(呉廠)

6. 艦内ニアル可燃物中防禦ニ使用レ得ルモノ(釣床衣裏、

ホサシハ露天甲板ノ防禦ニ使用シ其ノ他ハ水線下ノ倉

庫及空所ニ入ル(本件ハ浮力増強ヲ第ス)

7. 合戦前ニ彈火藥庫西側ノ重油タンクヲ整理シ之ヲ空

水ヲ注入ス

8. 彈火藥庫隣接区劃内、可燃物ハ特ニ徹底的ニ除去
シ甲板、油分等ハ拂拭セリ

冷却機用ノ炭酸瓦斯ヲ防火用ニ準備ス

(1) 防火及防水対策ニ対スル所見

ノ第一日目ニ魚雷艇ノ魚雷(45cm程度)一本四五番五〇番ヒム

向ニ受ケ約十噸モ浸水艦首ニ米沈下ス

浸水部附近、隔壁光朽セル處補強ヲ施スモ十節以上

ノ航行ハ隔壁ニ無理ヲ來ス

又第二日艦橋后部ニ250Kgニ發后橋前方ニ各ニ發其他至近

彈數發アリタルモ艦ノ傾斜沈下等殆ンド認めズ左舷、

予備魚雷四本右舷、予備魚雷一本、自爆ニヨリ船體ハ

亀裂ヲ生ジ重油タンク漏洩引火シ漸次左舷ニ傾斜約兩

時半、後沈没セリ

四一酸化炭素ニ依ル人命被害ハ意外ニ大ナリ魚雷爆弾炸裂時

被害現場勿論ナルモ隣接區域及同區域ヨリ傳聲管及電線孔等ニテ氣密不充ナル區劃ハ十二分ニ警戒セ要アリ尚艦装上下甲板以下ノ區劃ヨリ他區劃ニ通スル傳聲管其他ハ總ヘテ瓦斯閉鎖ノ構造トナスヲ要ス

(註)レイテ灣突入際魚雷艇魚雷命中時發生セル一酸化炭素ハ電線通路ヨリ艦橋ニ至ル電線引込處所ニ沿ヒ前部電信室ニ浸入在室電信員全部(九名)ヲ墮シ更ニ傳聲管ニテ暗號室ニ浸入在室者半数(二名)ヲ墮シ其他瓦斯中盡ニ依ル戦死者ノミテモ總計約二〇名(該被害ニ依ル戦死者六割)ニ及(リ)

〔砲戦之部〕

五爆(銃)殺ヲ回避ハ降爆ニ対フルモノハ平爆ニ比シ効果大ナラス

故ニ寧ロ全砲火發揮ニ重点ヲ置クヲ可トス

(註) 今回ノ戦斗ニ於テ敵降爆ニ對シ砲火全砲發揮ニ努メ敵ノ意圖ヲ挫折セシメ又ハ精度極メテ不良ヲラシメ且之ヲ撃破スル等降爆ニ對シテハ我被害ヲ以テ無クシ得タリ
六機銃員被害極限ニ制シテハ機銃裝備位置ノ外側ニ少クモ一〇発以上、鋼鉄ヲ張り其他彈片除キ整備スルト共ニ降爆ニ對シテハ彈着直前通時伏セ、姿勢力ヲトラシムル如ク指導スルヲ可トス(但シ降爆ニ對シテハ最後迄極力スルヲ要ス)

(註) B-24三機來襲時第一次爆撃(六機編隊)ニ依リ二五〇呎程度、モ、直撃ニ至近彈四ヲ受ケ機銃員ハ其大半ヲ失ヒ引續キ第二次爆撃(十二機編隊)ニテ殆ト壊滅状態ニ至セリ彈片除ハ艦内利用シ

〔運動之部〕

ノト思考ス

得ルモノハ悉ク之ヲ使用シ萬全ヲ期シタルモ大型之爆彈ニ
對シテハ其ノ效果殆ト認メテ豫期以上ノ損害ヲ受ケ
タリ爆彈々着前機宜（概テ敵機上空通過直前）
伏セ、姿勢力ヲ執ラシメタランニハ被害ハ半減シ得タルモ

七、單機深撃手回避運動

高度二十米以上ノ水平爆撃手ニ對スル阿武隈型輕巡、
砲戦ト回避ト、兼合ハ左記ノ如クスルヲ可ナリト認ム
（單機ニ對シ）



五十鈴

飛行機ヲ艦尾ニ保チ回避運動開始（回避）迄高角砲（艦ニ内シ）ヲ以テ敵隊ニ對シテ回避方向（風上側）ヲ立前トス

（四）編隊機ニ對シ

二門ノ高角砲ニ依ル射撃効果ハ殆ド期待出來ザルヲ以テ断然射撃ヲ断念シ回避一点張トナスヲ要ストモスレバ戦場心理トシテ殆ド効果ナキ砲火ニテモ之ヲ向ケ居レバ安心感ヲ得ルヲ以テ平素蓄シカラスト

思考シ居ル方法ヲモ採リガナリ

阿武隈型輕巡ハ編隊機群ニ對シテハ對空砲火ノ發揮ヲ犧牲トシ向首回避ヲ行フモ、トスル鉄則ヲ定メ置ク要アリ

八 應急操縦

の航海長ハ舵第一ニ徹底スルヲ要ス

(註)敵魚雷艇ヨリ攻撃被害ヲ受ケタル場合「敵魚雷

艇」が何處ニ居ルカ係艇トノ關係位置が如何ニナッ

テ居ルカ等ニ氣ヲ奪ハル、トナク先ヅ第一ニ舵ハ

如何ヲ確認スベキナリ

即チ操舵員ニ「舵ハ効カレ」舵効キマセン然ラバ

被害箇所ハ前部ナルヲ以テ「後部操舵」ヲ下令

後部操舵整備セバ艦長ニ「舵ハ大丈夫」ヲ報

告スレバ可ナリナリ

然ルニ實際ハ戦場心理トモ言フベキカ敵魚雷艇ハ

何處ニアリヤ緊急斉動後係同ノ關係位置ハ如何

等ニ注意ヲ奪ハレ舵ニ對スル應急處理遅レ且ツ

「舵故障」人力操舵ヲ下令セルヲ以テ被害箇所ノ

應急作業ト砲戰配置ニ就キアリシ關係上人力操
舵員參集セズ漸ク氣付キテ後部操舵ヲ下令
セル狀況ナリキ 注意スベキ矣ナリト思考ス

(四) 次席操舵員ハ必ズ後部操舵所又ハ人力操舵所ニ
配スルヲ要ス

(註) 次席操舵員ノ平常配置ハ人員ノ關係上轉輪
羅針儀ヲ受ケテタシタルモ戰鬥中ハ必ズ後部
操舵所ニ行キ應急操舵ニ從事セシムル様達シ
アリシモ構ラズ被雷時轉輪羅針儀室ニ在リ
即死セル爲應急操舵ニ若干ノ支障ヲ來タセリ
轉輪ノ故障ハ戰鬥ニ重大支障ヲ及バサザルモ舵
ノ故障ハ直ニ重大影響ヲ及ボスベキヲ肝銘シ次席
操舵員が確密ニ應急操舵配置ニアリマスヤ

確認スル、着意、肝要、ト認ム。

九敵大型三機ト水上艦艇ト、戦斗ニ煙幕ノ利用ヲ計ル
コト肝要ナリ

(註) 大型機ノ高度高リ我銃砲火ノ威力ヲ豫期シ得ザル
場合又ハ回避、急高連(ニ高部以上)發揮困難ナル
場合等ニハ先ヅ濃密ナル藥煤煙幕ヲ展張シ極力
其中ニ韜晦シ敵機高度ヲ下ゲ來ルカ、又ハ回避ニ
充分ナル高速ヲ發揮シ得ルニ至ラバ好機ニ乘シ煙
幕裡ヨリ出デテ及撃手ニ出シルヲ可トス
船體機關等損傷シ速力發揮困難ナル場合ハ
及撃手ハ警戒戒嚴ニ付也損傷艦ハ極力煙幕裡ニ
韜晦スルヲ可トスベシ

(終)